

歯と口のハテナ

県歯科医師会

②

歯周病と脳卒中

田中 俊

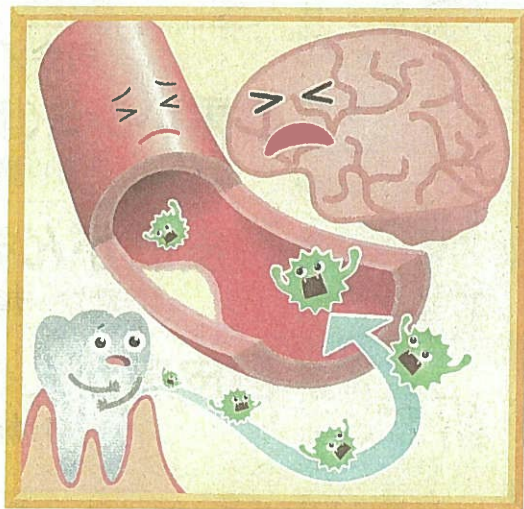


田中 俊 (たなか・すくろ) 1974年生まれ。岩手医大歯学部卒。県歯科医師会学術医療管理委員会委員。両川歯科医院(遠野市) 歯科医師。遠野市在住、同市出身。

「歯周病」とは、歯肉、歯根膜、セメント質および歯槽骨で構成される歯周組織が破壊される炎症性疾患で、歯周病菌による感染症が原因であることは以前のコラムで説明しました。日本人の成人約80%に何らかの歯周病の症状が認められています。

「脳卒中」にはいくつかの種類がありますが、大きくは脳の血管が詰まる「脳梗塞」と、脳の血管が破れて出血する「脳出血」や「くも膜下出血」に分けられます。歯周病患者では脳卒中発症のリスクが高く、歯周病が循環器疾患に深く関わっている、と多くの調査結果が報告されています。歯周病が全身疾患と関連する大きな要因は、「歯

慢性的な炎症が要因



周病の慢性炎症の持続」層の毛細血管を介し血流にあります。炎症が起きると歯と歯ぐきの間の歯周ポケットという隙間が深くなり、その中で歯周病菌が増殖します。歯周病が進み、ポケット内での増殖した菌は、歯肉固有

この歯周病菌などの刺激により動脈硬化を誘導する物質が出て脳梗塞や心筋梗塞になりやすいといわれています。また歯を失う本数が多いと、野菜や果物を食べる量が減少し、食生活の変化からも脳梗塞になる危険性が高まるとの報告もあります。

現在、岩手県の脳卒中死亡率は全国ワースト1位と大きな課題になっております。高血圧、糖尿病、心臓病、脂質異常症、喫煙、肥満など生活習慣病が大きな要因となっております。歯周病を管理することも脳卒中予防をはじめ、循環器疾患を原因とした死亡率の抑制につながる可能性が示されています。

健康寿命を延ばすためにも定期的にかかりつけ歯科医と相談し、正しい口腔管理に取り組みましよう。